

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 6月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	3870102732		
法人名	医療法人 博愛会		
事業所名	グループホーム しらさぎ		
所在地	松山市会津1-19	(電話) 089-951-7246	
管理者	佐伯 英美子		

評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	平成19年5月10日	評価確定日	平成19年6月19日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算 6人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(3) 利用者の概要(平成19年4月現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.9 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 <input checked="" type="checkbox"/> あり・ <input type="checkbox"/> なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	指定認知症対応型通所介護
届出 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	短期利用型共同生活介護
指定 <input checked="" type="checkbox"/> あり・ <input type="checkbox"/> なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い通りに面したホームであるが、ホーム内は静かで、廊下や居室はとても広々とし、落ち着いた雰囲気になっている。近くには郊外電車の駅やコンビニエンスストア、スーパー、学校等があり、生活面でも大変便利である。母体が病院で、ホームの管理者が看護師であるため、利用者や家族は医療面も安心している。また、利用者の多くが車いすを利用されるなど重度化が進んでいるが、理念である「自分らしさ」の実現を目指し、管理者や職員は日々ケアサービスの向上に努めている。

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
スタッフは、前回示された改善課題だけでなく、全ての項目に関して何らかの対応をしようと意欲的に取り組んでいる。このことは、自己評価の全ての事項で「取り組みたい」に記載があることからもうかがえる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
自己評価について、管理者は独自に勉強をされ、また全職員で話し合いをするなど、自己評価を通じてサービスの質の向上に努めている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
行政との付き合いはあまりなかったが、2月に行われた第一回運営推進会議で市の担当職員に参加してもらい、これを機会に今後の連携を検討している。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
月に一度手紙を、また月末には出納帳のコピーを送付している。利用者の健康状態に合わせてその都度近況報告もしている。また、職員の異動についても、よく面会にこられる家族には内容を口頭にて説明している。家族会の実施は現在検討中である。家族から出た意見はミーティングで話し合い問題解決を図っている。

▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
町内会には加入しているが、地域との付き合いは少ない。しかし、踊りや、月に1度の折り紙の先生の訪問、学生ボランティアの訪問等がある。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜そ
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームしらさぎ

(ユニット名)

1F

記入者(管理者)
氏名

佐伯 英美子

評価完了日

平成19年 6月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「自分らしく」がホームの理念であり、利用者がその人らしく過ごせる環境をつくっている。	※	地域密着サービスの役割をスタッフ全員で考えていきたい。
			(外部評価) 「自分らしく」という開設当時の理念を掲げ、管理者は地域密着型サービスについて熱心に勉強している。	※	地域資源としてのホームのあり方について考えながら、理念の再検討をされる事を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 全スタッフが目指す理念を理解できるように、スタッフ間でのミーティングで話しあっている。	※	新入社員に対しても、理念を理解できるように早期から説明していく。
			(外部評価) ミーティングで理念について話し合っており、職員も「自分らしさ」とは何かを理解し、利用者一人ひとりのペースに合わせ、言葉かけやケアを行っている。	※	目的としての「自分らしく」という理念をより具現化し、日々のケアに活かされる事を期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族に対しては、訪問時に伝えている。	※	地域の人々にもっと理解してもらえようしていきたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所との関わり合いが非常に少ない。	※	日々の散歩等で、近所の方との関わりを持てるようにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事に参加する人が少ない。	※	積極的に参加できるようにしていきたい。
			(外部評価) 町内会には加入しているが、地域との付き合いは少ない。しかし、踊りや、月に1度の折り紙の先生の訪問、学生ボランティアの訪問等がある。	※	利用者の生活の幅が広がるよう、ホーム側から地域に積極的に働きかけ、理解や協力を得ることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 話し合い等に参加していなかった。	※	地域との関わりを持って、積極的に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価に対して、全スタッフで話し合いを持っている。	※	スタッフ全員で自己評価に取り組んでいきたい。
			(外部評価) 自己評価について、管理者は独自に勉強をされ、また全職員で話し合い、サービスの質の向上に努めている。	※	自己評価を基に、全職員で項目の見直しを行い、評価の活用に向けて取り組むことを期待したい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 今年2月より運営推進会議を行い、意見を頂いている。	※	運営推進会議での意見を聞き、スタッフ全員でサービス向上に努めていきたい。
			(外部評価) 2月に第一回運営推進会議が行われたばかりで、今後の会議の進め方を検討中である。	※	今後の運営推進会議の課題・内容等について、利用者及び家族や職員で話し合う事を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今までできていなかった。	※	運営推進会議の開催を契機に、市町村との連携を図っていきたい。
			(外部評価) 行政との付き合いはあまりなかったが、2月に行われた第一回運営推進会議で市の担当職員に参加してもらい、これを機会に今後の連携を検討している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している方がいるので、スタッフの理解は多少できていると思う。	※	スタッフ全員に権利擁護についての理解を深めてもらう為に、研修等に参加してもらう。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎日のミーティングの中で、虐待に対しての話し合いを持っている。	※	新職員に対しては、個別に指導していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけて説明を行っている。説明時に分かり易い言葉で使う。	※	今後も説明を十分に行い、理解を得られるようにしていく。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先に意見を記入してもらうようにしている。	※	利用者及びご家族から機会を伺い、意見を聞いている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月文書にて報告をしている。身体的な事は、その都度電話で報告している。 (外部評価) 月に一度手紙を、月末には出納帳のコピーを送付している。利用者の健康状態に合わせてその都度近況報告もしている。また、職員の異動についても、よく面会にこられる家族には内容を口頭にて説明している。	※	面会時にも利用者の状況を説明していきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に家族の方に利用者の状態を説明している。家族の方に意見を伺い、苦情や不満があれば、ミーティングを行い、改善していくようにしている。 (外部評価) 家族会は現在検討中である。手紙でも要望はないか確認しているが、面会に来た家族にはさりげなく会話の中で意見を引き出せるような雰囲気づくりをし、いただいた意見はミーティングで話し合いを行っている。	※	今後も家族の方から意見を伺い、継続的に全スタッフが協同して取り組んでいく。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングの時間を日々設け、全スタッフの意見を聞いている。	※	全体のミーティングの時間だけでなく、個別的にも意見を聞いていくようにしたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務調整は急な退職等があり、円滑に実施できていない。	※	利用者や家族の要望等を聞き、柔軟に対応できるような勤務調整を整えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの職員が退職するにあたって、利用者に対して大きなダメージを与えないように努めている。 (外部評価) 職員の異動・離職がある際は利用者に説明し、頻繁に面会に来られる家族にも口頭で説明している。また、新しい職員が入った際にも利用者を紹介し、声かけを行う事で馴染みの関係を築くよう努めている。	※	利用者に対して新職員が馴染められるように、日常生活の中で双方が円滑な関係を構築できるサポートしている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 正職員には研修へ参加してもらっている。 (外部評価) 現場の仕事が優先される傾向があり、職員が休みを利用するなど、希望の研修に参加できていないと言えない。	※	パート職員に対しても研修へ参加してもらいたい。 職員の知識の向上の為に、ホームとして研修への参加を計画的に行い、法人が費用を負担するなど、職員がより研修に参加しやすい体制を整える事を期待したい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 法人内の他の事業所と交流することはあるが、他の同業者と交流する機会が少ない。 (外部評価) 法人内で月に一度、問題点を発表する研修や他施設との交流がある。グループホーム連絡協議会にも加入している。	※	連絡会等に積極的に参加し、交流を深めていきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) スタッフの相談や悩みを日常の中で受け止めていくようにしている。	※	個別的に相談にのる時間をもう少し取ってほしい。ストレスを軽減できるように勤務時間を検討していきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の勤務状況を把握し、向上心をもてるよう努めている。	※	各スタッフ個々の個性・考え方を掌握し互いに尊敬し合い、長所を誉め称え合っていきたい。また、各スタッフの日々の何気ない取り組みにも感謝の意を伝えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前訪問で本人の生活状況を把握するように努めている。	※	入居後も本人と面談し、思いや不安等を理解できるように努めている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談を受けた時及び事前訪問の時に、家族から詳しく話を聞いている。	※	本人が入居され、面会時にも話し合う機会を持っている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いや願いを確認し、必要と判断すれば、他事業所と相談を行っている。	※	今後、地域包括支援センターに相談することも考えている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前訪問後、本人、家族の方に見学してもらっている。	※	スタッフと関わり合いを持ってもらい、本人が納得した上で利用してもらっている。
			(外部評価) 本人や家族に事前にホームを見学してもらい、納得したうえで入居していただいている。しかし、本人や家族から得た生活歴の情報が少ない。	※	利用者・家族の意向を把握し、「本人らしさ」の具体化を期待したい。ホームは意向の把握の必要性等を十分理解されているので、早急に取り組みたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人の思いや不安、苦しみを知ることにより、日々の生活の中で支え合う関係を築いている。	※	今後も一層、継続して取り組んでいきたい。
			(外部評価) 本人の意思を尊重し、無理強いはせず利用者のペースで生活してもらっている。しかし利用者の身体機能等のレベルが低下しており、利用者にとっての楽しみごとの場面づくりが少ない。	※	利用者・家族の意向を把握し、理念の「自分らしく」を具体化することを期待したい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者に対する家族の思いを理解し、その思いに沿って伴に利用者を支えている。	※	今後も家族の方から入所者への思いを聞き、意向を汲んだ上で伴に利用者を支えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の思いを家族の方へ伝え、家族の方の思いも職員が受け止めるように面会時に手紙等で相談、報告を行っている。	※	家族との面会が少ない利用者に対して、家族へのアプローチを積極的に行っていきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や友人などの関係は途切れないよう支援している。また、なじみの場所へ外出できるよう支援している。	※	本人の身体、精神の状態・本人を取り巻く周辺環境等、可能な範囲で支援に努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事時、ティータイムの時に利用者同士の会話が弾むように職員が橋渡しの役割を行っている。	※	孤立し易い利用者に対しては、各利用者の輪の中へ溶け込んでいけるよう職員が橋渡しの役割を果たしていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居された家族からの連絡、相談があれば、のっている。	※	退居された後も、利用者やその家族に対して力になれることをスタッフ全員で思索していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、本人の思い等を把握するように努めている。	※	各スタッフ・家族の方と協同し、本人の思い等を把握している。
			(外部評価) 管理者や職員は、明るい声かけで利用者と関わっている。しかし、利用者の生活歴等の情報が少ない為、本当に本人が希望するような暮らしができていないかが把握できない。	※	利用者一人ひとりの思いを把握するよう、ミーティング等で話し合い、全職員が共有することを期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問の時に本人・家族の方から状況を伺う。	※	入居後にも本人との関わり合いの中から知る。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で本人のリズムを知る。	※	残存機能を理解し、全体像を知る。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族と話し合いを持ち、計画作成を行っている。	※	スタッフ全員で話し合いを持って、計画作成を行う。
			(外部評価) 家族等に意見を聞き介護計画に反映させているが、日常の聞き取り等を中心に作成しているため、実際のケアに活用できる事が限られている。現在、生活歴シートの検討中である。	※	今後、より介護計画を活かす為にも、職員がそれぞれで把握している利用者についての情報を全員で共有し、介護計画に取り入れる事を期待したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 計画の期間が終了する前に見直しを行っている。	※	状態が急変した時は、計画の見直しを早急に行う。
			(外部評価) 困っている事があれば引継ぎの後に話し合いがもたれ、管理者・利用者の担当職員・パート職員に意見を出してもらい、随時介護計画の見直しを行っている。	※	今後、より介護計画を活かす為にも、職員がそれぞれで把握している利用者についての情報を全員で共有し、介護計画に取り入れる事を期待したい。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別に記録している。	※	気づいた点等があれば、ミーティング時にスタッフで検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 現時点では、ショート・デイは実施していない。	※	今後、ショートの導入を検討していきたい。
			(外部評価) 現在はホームの利用者優先の運営を行っているが、ショートステイ及びデイサービスを検討中である。	※	地域との連携を今後より密接にし、ホームの機能を活かして地域のニーズに応えるような取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 今までできていなかった。今年の2月から推進会議を行った。	※	民生委員、ボランティアの協力を得られるようにしていく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今現在、利用していない。		今後は他事業所との話し合いを持っていく。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今までは関わり合いがなかったが、今年の2月に推進会議を開催し、関わり合いを持つことができた。	※	推進会議を開催することで、情報交換、協力関係を築いていく。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医との往診が2週間に一度あり、身体状況の変化があれば、定期往診以外にも来てもらっている。 (外部評価) 家族がかかりつけ医に連れて行く利用者もいれば、ホームでの2週間に一度の往診もある。ホームに入居される前に、協力医療機関の往診があると家族にも説明をしている。	※	主治医と連携を取りながら、最適な医療が受けられるようにしていく。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医の往診が2週間に一度ある。	※	2週間に一度の往診で対応しているが、悪化する場合は、専門病院へ受診の検討をしていきたい。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しており、日常の健康管理を行っている。	※	主治医の往診時に相談している。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入院した場合、入院先の担当者と情報交換を行っている。退院に向けて、家族と病院関係者と連携を図っている。	※	早期に退院できるように関係者との連携を大切にしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 利用者様の身体状況を把握し、主治医・家族と連携を取り、話しを持っている。 (外部評価) 入居時に説明し、家族の希望を重視しているが、家族の希望が変わった際にも話し合っている。また、運営推進会議でも話題として取り上げている。	※	スタッフ全員に対してミーティング等で、話し合いを持ち、共有できるようにしていきたい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 施設内で、どこまでできるのかをミーティング時等にスタッフと話し合っている。 本人、家族の方の意向を伺い、主治医との連携を取り、終末期を迎えられるようにしていく。	※	家族の方にもできること・できないことを十分に説明し、理解して頂けるようにしている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族や周辺の関係者から、本人の環境・状況を把握することの努めている。	※	より詳細な情報を集め、本人の環境・状況を把握している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個々人を尊敬し、プライバシーを守る。 (外部評価) 職員にも徹底されているが、トイレや居室で介助を行う際に扉が開いていた場合等にはその都度指導・声かけを行っている。また、職員自身のプライベートな会話を利用者の前ではしないようにも指導している。	※	スタッフの意識向上を図る。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の思いを引き出せるように声をかける。	※	意思表示が困難な利用者様に対しても、思いを引き出させるような方法を検討していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を行っている部分もある。	※	利用者一人一人のペースを守っていきたい。職員の都合で行わない。
			(外部評価) 極力、職員主体にならず、利用者一人ひとりのペースに応じて生活してもらえよう支援している。	※	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 着替えは利用者の意向で行っている。意思表示できない利用者に対しても、本人が好んでいたものに着替えをもらっている。	※	利用者、家族の希望に添ったところで行っている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に対して、食べたい物を聞き、メニューに取り入れている。 (外部評価) 身体機能等が低下している利用者が多いため、食事の準備に関わる事は困難であるが、箸を置いてもらうなど簡単な事でも関わってもらおうよう、職員が声かけしている。	※	利用者の持っている力を引き出し、職員と一緒に準備等を行っている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在、たばこ・アルコールをたしなむ方がいない。 おやつ等は利用者の好みに合わせている。	※	行事の時に、少しのアルコール飲用を考えている。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者の身体状況により、トイレ誘導を行なっている。	※	ポータブルトイレを使用していた方に対して、昼間はトイレに行ってもらおうようにしていく。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 現在、時間帯が決まっている。	※	今後それぞれの時間帯に合わせていく方向を現在検討している（職員のシフト等の検討）。
			(外部評価) 職員の多い時間帯に入浴してもらおう事が多い。入浴を拒否する利用者へは、気分が落ち着いてから声をかけたり、他の職員が対応するなどアプローチの変化で入浴を支援している。しかし、介助の必要な利用者が多いため、毎日入浴してもらうまでには至っていない。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の身体状況によって、休息を取ってもらっている。	※	夜間不眠を訴える利用者に対しては、昼夜逆転のリズムを改善していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) それぞれの特技を生かして、楽しみを見つける。	※	気分転換が行える計画を立てた上で実施していきたい。
			(外部評価) 洗濯物たたみ、習字、カラオケなど、楽しみことを選択できる準備はしているが、利用者の身体機能等が低下してきており、いろいろな楽しみを支援することが困難となっている。	※	利用者の過去や生活歴の情報を集め、利用者側の意向や希望を把握した支援を期待したい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の状況に応じて財布を持ってもらっている。	※	外出の際、預っているお金で好きな品物を購入できるように支援を行う。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 近所を散歩する。	※	一人一人の希望に添った外出援助を行いたい。
			(外部評価) 気分転換に近所を散歩したり、近場にドライブに行ったりしている。しかし、車いす利用者が多いため、車の手配等法人の協力がなく遠くへの外出は困難である。	※	事前に外出日を計画するなど、利用者の意向や希望を把握した支援をする事を期待したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 近場のドライブはできているが、遠方への外出が行えていない。	※	それぞれが行きたい場所に外出できるようにしていきたい(勤務体制を整える)。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字が書ける利用者には積極的に手紙を書いてもらっている。	※	電話をかけることができない人に対してのフォローアップをしていきたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも訪問して頂けるような雰囲気・環境を整えている。	※	訪問して頂き、自室でゆっくり過ごして頂けるように心がけている。自室以外での交流スペース創りを今後検討していく。
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について、スタッフ全員で取り組んでいる。	※	新職員には個別的に誘導していく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室には鍵の使用はしていない。 (外部評価) 各居室、玄関は施錠されておらずオープンである。注意を怠らない見守りを重視しており、外出しようとする利用者には声をかけ、一緒にホームの回りを散歩したりしている。	※ ※	玄関に鍵をかけないように心がけている。 利用者の意向・希望を把握した支援をされる事を期待したい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はフロアにいる職員が見守りを行っている。夜間は、一人での見守りを行っている為、フロア中央で見守りを行っている。	※	夜間見守りを静かに行っていく。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤、薬剤等は保管・管理している。	※	各利用者の状態に応じて、最適な管理・保管を実施している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットの記録を残し、それをミーティング時に活用して、事故を防ぐ対策を取っている。	※	勉強会を開催し、事故防止に対する対策を検討していく。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアル作成で対応しているが不十分である。	※	今後外部での研修にスタッフが参加できるようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との関わり合いが少ない。	※	推進会議で地域の方に協力して頂けるように働きかけていきたい。また近隣の常勤職員がすぐ駆けつけられる体制を整備していきたい。
			(外部評価) 年に1回避難訓練を行っており、避難場所の確保、連絡網等の体制は整備されている。	※	避難場所の確保や連絡網はあるが、地域との連携体制がとられていないので、地域の協力が得られるよう、ホーム側からの働きかけを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 家族の方に対して面会時に、利用者の状態を説明し、リスクがあることを説明している。	※	特にベットからの転落・車椅子からの転倒を危惧されている家族の方に対して、実際の予防方法をお伝えする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況をスタッフは把握しており、少しでも変化があれば、看護師及び管理者に報告した後、主治医に連絡を取っている。	※	異常の早期発見に努めていく。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人記録簿に内服薬の取扱いに関する説明書を綴じ、スタッフがいつでも確認できるようにしている。	※	新しい薬が出された際、ミーティング時に看護師よりスタッフへ説明を行っている。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に対して、食事内容の変更や腹部マッサージ等を行う。	※	体操を取り入れ、自然排便を行えるように取り組んでいきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きを実施している（義歯の洗浄）。	※	自分一人のできる人は、声をかけ、各自に行ってもらっている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は管理栄養士が献立を立てており、栄養バランスに配慮している。	※	食事摂取量の記録を行い、摂取量が少ない時や体重減少があれば、主治医と相談している。
			(外部評価) 管理栄養士が一週間分の献立を考えている。水分は一日1400～1500cc摂取するようにしており、水分が特に必要な利用者には記録をとって支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対して、マニュアルを作成し、それも基に予防・対応を徹底させている。	※	感染症発生時、スタッフが素早く対応できるように勉強会を行って、知識の向上を図っていきたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、布巾等は、毎日漂白を行い、清潔を心がけている。	※	冷蔵庫内の食材の日付を確認し、買いだめをしないように気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周囲に花を飾り、雰囲気作りを行っている。	※	ベンチを置き、入り易い工夫をしていく。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングに畳があり、そこに坐ってもらったり、横になってもらっている。 (外部評価) 共用空間には南向きに大きな窓があり、日中は電気をつけなくても明るい自然の光が差し込む。	※	季節感のある飾りつけをしていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各利用者同士が円滑な関係を構築できるよう職員が気配りしている。 また時として各居室で一人でゆっくり過ごせる状況もつくり出している。	※	一人で孤立した利用者に対しては、職員から働きかけ、利用者同士の関係づくりをサポートしている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に本人・家族の方に普段から使われている物品を持ち込んでもらうように説明している。 (外部評価) 広い居室は、個々に合わせて畳やフローリングとなっており、ベッドを持ち込んでいる利用者もいる。馴染みの物を持ち込んでいる利用者は少ないが、その人の思い出の写真等が飾られている。	※ ※	利用者が居心地の良い生活が送れるよう各居室の物品を各本人の希望に応じて、整理している。 より一層家族らの協力を得て、その人らしい居室空間をつくられる事を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室内の換気を2～3時間に行っている。 トイレには消臭剤と換気扇で悪臭が出ないようにしている。	※	換気に関しては、利用者の様子を見ながら行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態に応じて、最適な空間スペースを設けている。	※	本人、家族の方の意向に添った空間づくりを実施していく。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 自室内の片付けは利用者と一緒にいき、物品の位置を変更しないように心がける。	※	各利用者の状況に応じて、各自一人で行ってもらう。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ウッドデッキがあり、お天気の良い日には日光浴や花の水やり等が行える環境を整備している。	※	特に車椅子を利用している方も楽しめるような配慮をしていきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己 ②) ① ほぼ全ての利用者の 評価) ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	完全に全利用者の考えを把握しているとは言えず、今後も力を入れていく余地のある為。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己 ②) ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	職員がなるべく時間を取るようにし、一緒に過ごすように心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己 ①) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	家族・家族と絶えず、連携を取り、各利用者に応じた生活をサポートしている為。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己 ②) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意思表示の困難な利用者もおり、今後も取り組んでいくべきであるため。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己 ③) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	車椅子利用の方等、重度な介護状態の方が多いため。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己 ①) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医との連携体制が完備されている為。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己 ①) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人・家族の意向を汲んだ生活をサポートしている為、
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己 ①) ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	何でも気軽に話し合える関係づくりができており、求められていることを実現できている為。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己 ③) ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	今後、地域との繋がりを強めていきたい為。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②) ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	徐々に、地域との関係づくりを行ってきている為。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②) ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	最大限、職員がモチベーションを高め、はつらつと勤務できるよう施設長・管理者がサポートしている為。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②) ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	素直に喜びと満足の表情を表現して下さる利用者が多い為。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	どの家族の方からも、いつも満足と感謝の思いを伝えられている為。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

運営推進会議をはじめ、今後、地域（地元住民・民生委員など）との繋がりを強める働きを積極的に展開し、地域の方を当グループホームに呼び込める状況づくりに励みたい。

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜そ
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームしらさぎ

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)
氏名

佐伯 英美子

評価完了日

平成19年 6月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「自分らしく」がホームの理念であり、利用者がその人らしく過ごせる環境をつくっている。	※	地域密着サービスの役割をスタッフ全員で考えていきたい。
			(外部評価) 「自分らしく」という開設当時の理念を掲げ、管理者は地域密着型サービスについて熱心に勉強している。	※	地域資源としてのホームのあり方について考えながら、理念の再検討をされる事を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 全スタッフが目指す理念を理解できるように、スタッフ間でのミーティングで話しあっている。	※	新入社員に対しても、理念を理解できるように早期から説明していく。
			(外部評価) ミーティングで理念について話し合っており、職員も「自分らしさ」とは何かを理解し、利用者一人ひとりのペースに合わせ、言葉かけやケアを行っている。	※	目的としての「自分らしく」という理念をより具現化し、日々のケアに活かされる事を期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族に対しては、訪問時に伝えている。	※	地域の人々にもっと理解してもらえようしていきたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所との関わり合いが非常に少ない。	※	日々の散歩等で、近所の方との関わりを持てるようにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事に参加する人が少ない。	※	積極的に参加できるようにしていきたい。
			(外部評価) 町内会には加入しているが、地域との付き合いは少ない。しかし、踊りや、月に1度の折り紙の先生の訪問、学生ボランティアの訪問等がある。	※	利用者の生活の幅が広がるよう、ホーム側から地域に積極的に働きかけ、理解や協力を得ることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 話し合い等に参加していなかった。	※	地域との関わりを持って、積極的に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価に対して、全スタッフで話し合いを持っている。	※	スタッフ全員で自己評価に取り組んでいきたい。
			(外部評価) 自己評価について、管理者は独自に勉強をされ、また全職員で話し合い、サービスの質の向上に努めている。	※	自己評価を基に、全職員で項目の見直しを行い、評価の活用に向けて取り組むことを期待したい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 今年2月より運営推進会議を行い、意見を頂いている。	※	運営推進会議での意見を聞き、スタッフ全員でサービス向上に努めていきたい。
			(外部評価) 2月に第一回運営推進会議が行われたばかりで、今後の会議の進め方を検討中である。	※	今後の運営推進会議の課題・内容等について、利用者及び家族や職員で話し合う事を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今までできていなかった。	※	運営推進会議の開催を契機に、市町村との連携を図っていきたい。
			(外部評価) 行政との付き合いはあまりなかったが、2月に行われた第一回運営推進会議で市の担当職員に参加してもらい、これを機会に今後の連携を検討している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している方がいるので、スタッフの理解は多少できていると思う。	※	スタッフ全員に権利擁護についての理解を深めてもらう為に、研修等に参加してもらう。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎日のミーティングの中で、虐待に対しての話し合いを持っている。	※	新職員に対しては、個別に指導していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけて説明を行っている。説明時に分かり易い言葉で使う。	※	今後も説明を十分に行い、理解を得られるようにしていく。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先に意見を記入してもらうようにしている。	※	利用者及びご家族から機会を伺い、意見を聞いている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月文書にて報告をしている。身体的な事は、その都度電話で報告している。 (外部評価) 月に一度手紙を、月末には出納帳のコピーを送付している。利用者の健康状態に合わせてその都度近況報告もしている。また、職員の異動についても、よく面会にこられる家族には内容を口頭にて説明している。	※	面会時にも利用者の状況を説明していきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に家族の方に利用者の状態を説明している。家族の方に意見を伺い、苦情や不満があれば、ミーティングを行い、改善していくようにしている。 (外部評価) 家族会は現在検討中である。手紙でも要望はないか確認しているが、面会に来た家族にはさりげなく会話の中で意見を引き出せるような雰囲気づくりをし、いただいた意見はミーティングで話し合いを行っている。	※	今後も家族の方から意見を伺い、継続的に全スタッフが協同して取り組んでいく。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングの時間を日々設け、全スタッフの意見を聞いている。	※	全体のミーティングの時間だけでなく、個別的にも意見を聞いていくようにしたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務調整は急な退職等があり、円滑に実施できていない。	※	利用者や家族の要望等を聞き、柔軟に対応できるような勤務調整を整えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの職員が退職するにあたって、利用者に対して大きなダメージを与えないように努めている。 (外部評価) 職員の異動・離職がある際は利用者に説明し、頻繁に面会に来られる家族にも口頭で説明している。また、新しい職員が入った際にも利用者で紹介し、声かけを行う事で馴染みの関係を築くよう努めている。	※	利用者に対して新職員が馴染められるように、日常生活の中で双方が円滑な関係を構築できるサポートしている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 正職員には研修へ参加してもらっている。 (外部評価) 現場の仕事が優先される傾向があり、職員が休みを利用するなど、希望の研修に参加できているとは言えない。	※	パート職員に対しても研修へ参加してもらいたい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 法人内の他事行所との交流はあるが、他の同業者と交流する機会が少ない。 (外部評価) 法人内で月に一度、問題点を発表する研修や他施設との交流がある。グループホーム連絡協議会にも加入している。	※	職員知識の向上の為に、ホームとして研修への参加を計画的に行い、法人が費用を負担するなど、職員がより研修に参加しやすい体制を整える事を期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) スタッフの相談や悩みを日常の中で受け止めていくようにしている。	※	連絡会等に積極的に参加し、交流を深めていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の勤務状況を把握し、向上心をもてるよう努めている。	※	個別に相談にのる時間をもう少し取ってきたい。ストレスを軽減できるように勤務時間を検討していきたい。
				※	各スタッフ個々の個性・考え方を掌握し互いに尊敬し合い、長所を誉め称え合っていきたい。また、各スタッフの日々の何気ない取り組みにも感謝の意を伝えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前訪問で本人の生活状況を把握するように努めている。	※	入居後も本人と面談し、思いや不安等を理解できるように努めている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談を受けた時及び事前訪問の時に、家族から詳しく話を聞いている。	※	本人が入居され、面会時にも話し合う機会を持っている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いや願いを確認し、必要と判断すれば、他事業所と相談を行っている。	※	今後、地域包括支援センターに相談することも考えている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前訪問後、本人、家族の方に見学してもらっている。	※	スタッフと関わり合いを持ってもらい、本人が納得した上で利用してもらっている。
			(外部評価) 本人や家族に事前にホームを見学してもらい、納得したうえで入居していただいている。しかし、本人や家族から得た生活歴の情報が少ない。	※	利用者・家族の意向を把握し、「本人らしさ」の具体化を期待したい。ホームは意向の把握の必要性等を十分理解されているので、早急に取り組みたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人の思いや不安、苦しみを知ることにより、日々の生活の中で支え合う関係を築いている。	※	今後も一層、継続して取り組んでいきたい。
			(外部評価) 本人の意思を尊重し、無理強いはせず利用者のペースで生活してもらっている。しかし利用者の身体機能等のレベルが低下してきており、利用者にとっての楽しみごとの場面づくりが少ない。	※	利用者・家族の意向を把握し、理念の「自分らしく」を具体化することを期待したい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者に対する家族の思いを理解し、その思いに沿って伴に利用者を支えている。	※	今後も家族の方から入所者への思いを聞き、意向を汲んだ上で伴に利用者を支えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の思いを家族の方へ伝え、家族の方の思いも職員が受け止めるように面会時に手紙等で相談、報告を行っている。	※	家族との面会が少ない利用者に対して、家族へのアプローチを積極的に行っていきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や友人などの関係は途切れないよう支援している。また、なじみの場所へ外出できるよう支援している。	※	本人の身体、精神の状態・本人を取り巻く周辺環境等、可能な範囲で支援に努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事時、ティータイムの時に利用者同士の会話が弾むように職員が橋渡しの役割を行っている。	※	孤立し易い利用者に対しては、各利用者の輪の中へ溶け込んでいけるよう職員が橋渡しの役割を果たしていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居された家族からの連絡、相談があれば、のっている。	※	退居された後も、利用者やその家族に対して力になれることをスタッフ全員で思索していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、本人の思い等を把握するように努めている。	※	各スタッフ・家族の方と協同し、本人の思い等を把握している。
			(外部評価) 管理者や職員は、明るい声かけで利用者と関わっている。しかし、利用者の生活歴等の情報が少ない為、本当に本人が希望するような暮らしができていないかが把握できない。	※	利用者一人ひとりの思いを把握するよう、ミーティング等で話し合い、全職員が共有することを期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問の時に本人・家族の方から状況を伺う。	※	入居後にも本人との関わり合いの中から知る。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で本人のリズムを知る。	※	残存機能を理解し、全体像を知る。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族と話し合いを持ち、計画作成を行っている。	※	スタッフ全員で話し合いを持って、計画作成を行う。
			(外部評価) 家族等に意見を聞き介護計画に反映させているが、日常の聞き取り等を中心に作成しているので、実際のケアに活用できる事が限られている。現在、生活歴シートの検討中である。	※	今後、より介護計画を活かす為にも、職員がそれぞれで把握している利用者についての情報を全員で共有し、介護計画に取り入れる事を期待したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 計画の期間が終了する前に見直しを行っている。	※	状態が急変した時は、計画の見直しを早急に行う。
			(外部評価) 困っている事があれば引継ぎの後に話し合いがもたれ、管理者・利用者の担当職員・パート職員に意見を出してもらい、随時介護計画の見直しを行っている。	※	今後、より介護計画を活かす為にも、職員がそれぞれで把握している利用者についての情報を全員で共有し、介護計画に取り入れる事を期待したい。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別に記録している。	※	気づいた点等があれば、ミーティング時にスタッフで検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 現時点では、ショート・デイは実施していない。	※	今後、ショートの導入を検討していきたい。
			(外部評価) 現在はホームの利用者優先の運営を行っているが、ショートステイ及びデイサービスを検討中である。	※	地域との連携を今後より密接にし、ホームの機能を活かして地域のニーズに応えるような取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 今までできていなかった。今年の2月から推進会議を行った。	※	民生委員、ボランティアの協力を得られるようにしていく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今現在、利用していない。		今後は他事業所との話し合いを持っていく。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今までは関わり合いがなかったが、今年の2月に推進会議を開催し、関わり合いを持つことができた。	※	推進会議を開催することで、情報交換、協力関係を築いていく。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医との往診が2週間に一度あり、身体状況の変化があれば、定期往診以外にも来てもらっている。 (外部評価) 家族がかかりつけ医に連れて行く利用者もいれば、ホームでの2週間に一度の往診もある。ホームに入居される前に、協力医療機関の往診があると家族にも説明をしている。	※	主治医と連携を取りながら、最適な医療が受けられるようにしていく。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医の往診が2週間に一度ある。	※	2週間に一度の往診で対応しているが、悪化する場合は、専門病院へ受診の検討をしていきたい。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しており、日常の健康管理を行っている。	※	主治医の往診時に相談している。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入院した場合、入院先の担当者と情報交換を行っている。退院に向けて、家族と病院関係者と連携を図っている。	※	早期に退院できるように関係者との連携を大切にしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 利用者様の身体状況を把握し、主治医・家族と連携を取り、話しを持っている。 (外部評価) 入居時に説明し、家族の希望を重視しているが、家族の希望が変わった際にも話し合っている。また、運営推進会議でも話題として取り上げている。	※	スタッフ全員に対してミーティング等で、話し合いを持ち、共有できるようにしていきたい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 施設内で、どこまでできるのかをミーティング時等にスタッフと話し合っている。 本人、家族の方の意向を伺い、主治医との連携を取り、終末期を迎えられるようにしていく。	※	家族の方にもできること・できないことを十分に説明し、理解して頂けるようにしている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族や周辺の関係者から、本人の環境・状況を把握することの努めている。	※	より詳細な情報を集め、本人の環境・状況を把握している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個々人を尊敬し、プライバシーを守る。 (外部評価) 職員にも徹底されているが、トイレや居室で介助を行う際に扉が開いていた場合等にはその都度指導・声かけを行っている。また、職員自身のプライベートな会話を利用者の前ではしないようにも指導している。	※	スタッフの意識向上を図る。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の思いを引き出せるように声をかける。	※	意思表示が困難な利用者様に対しても、思いを引き出させるような方法を検討していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を行っている部分もある。 (外部評価) 極力、職員主体にならず、利用者一人ひとりのペースに応じて生活してもらえよう支援している。	※ ※	利用者一人一人のペースを守っていききたい。職員の都合で行わない。 車いすの方が多いため、介助の面で職員の手が不足することもあるかもしれないが、食事の時はなるべく車いすではなく椅子に座って食事をとってもらえる等の取組みを期待したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 着替えは利用者の意向で行っている。意思表示できない利用者に対しても、本人が好んでいたものに着替えをもらっている。	※	利用者、家族の希望に添ったところで行っている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に対して、食べたい物を聞き、メニューに取り入れている。 (外部評価) 身体機能等が低下している利用者が多いため、食事の準備に関わる事は困難であるが、箸を置いてもらうなど簡単な事でも関わってもらえよう、職員が声かけしている。	※	利用者の持っている力を引き出し、職員と一緒に準備等を行っている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在、たばこ・アルコールをたしなむ方がいない。おやつ等は利用者の好みに合わせている。	※	行事の時に、少しのアルコール飲用を考えている。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者の身体状況により、トイレ誘導を行なっている。	※	ポータブルトイレを使用していた方に対して、昼間はトイレに行ってもらえようようにしていく。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 現在、時間帯が決まっている。 (外部評価) 職員の多い時間帯に入浴をしてもらう事が多い。入浴を拒否する利用者へは、気分が落ち着いてから声をかけたり、他の職員が対応するなどアプローチの変化で入浴を支援している。しかし、介助の必要な利用者が多いため、毎日入浴してもらうまでには至っていない。	※ ※	今後それぞれの時間帯に合わせていく方向を現在検討している（職員のシフト等の検討）。 職員の都合ではなく、利用者個々の希望にあわせた入浴支援ができるよう、法人の理解を得て勤務体制の工夫をするなど、早急に検討されたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の身体状況によって、休息を取ってもらっている。	※	夜間不眠を訴える利用者に対しては、昼夜逆転のリズムを改善していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) それぞれの特技を生かして、楽しみを見つける。	※	気分転換が行える計画を立てた上で実施していきたい。
			(外部評価) 洗濯物たたみ、習字、カラオケなど、楽しみことを選択できる準備はしているが、利用者の身体機能等が低下しており、いろいろな楽しみを支援することが困難となっている。	※	利用者の過去や生活歴の情報を集め、利用者側の意向や希望を把握した支援を期待したい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の状況に応じて財布を持ってもらっている。	※	外出の際、預っているお金で好きな品物を購入できるように支援を行う。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 近所を散歩する。	※	一人一人の希望に添った外出援助を行いたい。
			(外部評価) 気分転換に近所を散歩したり、近場にドライブに行ったりしている。しかし、車いす利用者が多いため、車の手配等法人の協力がなく遠くへの外出は困難である。	※	事前に外出日を計画するなど、利用者の意向や希望を把握した支援をする事を期待したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 近場のドライブはできているが、遠方への外出が行えていない。	※	それぞれが行きたい場所に外出できるようにしていきたい(勤務体制を整える)。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字が書ける利用者には積極的に手紙を書いてもらっている。	※	電話をかけることができない人に対してのフォローアップをしていきたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも訪問して頂けるような雰囲気・環境を整えている。	※	訪問して頂き、自室でゆっくり過ごして頂けるように心がけている。自室以外での交流スペース創りを今後検討していく。
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について、スタッフ全員で取り組んでいる。	※	新職員には個別的に誘導していく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室には鍵の使用はしていない。 (外部評価) 各居室、玄関は施錠されておらずオープンである。注意を怠らない見守りを重視しており、外出しようとする利用者には声をかけ、一緒にホームの回りを散歩したりしている。	※ ※	玄関に鍵をかけないように心がけている。 利用者の意向・希望を把握した支援をされる事を期待したい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はフロアにいる職員が見守りをを行っている。夜間は、一人での見守りをを行っている為、フロア一中央で見守りをを行っている。	※	夜間見守りを静かに行っていく。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤、薬剤等は保管・管理している。	※	各利用者の状態に応じて、最適な管理・保管を実施している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットの記録を残し、それをミーティング時に活用して、事故を防ぐ対策を取っている。	※	勉強会を開催し、事故防止に対する対策を検討していく。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアル作成で対応しているが不十分である。	※	今後外部での研修にスタッフが参加できるようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との関わり合いが少ない。	※	推進会議で地域の方に協力して頂けるように働きかけていきたい。また近隣の常勤職員がすぐ駆けつけられる体制を整備していきたい。
			(外部評価) 年に1回避難訓練を行っており、避難場所の確保、連絡網等の体制は整備されている。	※	避難場所の確保や連絡網はあるが、地域との連携体制がとられていないので、地域の協力が得られるよう、ホーム側からの働きかけを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族の方に対して面会時に、利用者の状態を説明し、リスクがあることを説明している。	※	特にベットからの転落・車椅子からの転倒を危惧されている家族の方に対して、実際の予防方法をお伝えする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況をスタッフは把握しており、少しでも変化があれば、看護師及び管理者に報告した後、主治医に連絡を取っている。	※	異常の早期発見に努めていく。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人記録簿に内服薬の取扱いに関する説明書を綴じ、スタッフがいつでも確認できるようにしている。	※	新しい薬が出された際、ミーティング時に看護師よりスタッフへ説明を行っている。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に対して、食事内容の変更や腹部マッサージ等を行う。	※	体操を取り入れ、自然排便を行えるように取り組んでいきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きを実施している（義歯の洗浄）。	※	自分一人のできる人は、声をかけ、各自に行ってもらっている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は管理栄養士が献立を立てており、栄養バランスに配慮している。	※	食事摂取量の記録を行い、摂取量が少ない時や体重減少があれば、主治医と相談している。
			(外部評価) 管理栄養士が一週間分の献立を考えている。水分は一日1400～1500cc摂取するようにしており、水分が特に必要な利用者には記録をとって支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対して、マニュアルを作成し、それも基に予防・対応を徹底させている。	※	感染症発生時、スタッフが素早く対応できるように勉強会を行って、知識の向上を図ってきたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、布巾等は、毎日漂白を行い、清潔を心がけている。	※	冷蔵庫内の食材の日付を確認し、買いだめをしないように気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周囲に花を飾り、雰囲気作りを行っている。	※	ベンチを置き、入り易い工夫をしていく。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングに畳があり、そこに坐ってもらったり、横になってもらっている。 (外部評価) 共用空間には南向きに大きな窓があり、日中は電気をつけなくても明るい自然の光が差し込む。	※	季節感のある飾りつけをしていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各利用者同士が円滑な関係を構築できるよう職員が気配りしている。 また時として各居室で一人でゆっくり過ごせる状況もつくり出している。	※	一人で孤立した利用者に対しては、職員から働きかけ、利用者同士の関係づくりをサポートしている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に本人・家族の方に普段から使われている物品を持ち込んでもらうように説明している。 (外部評価) 広い居室は、個々に合わせて畳やフローリングとなっており、ベッドを持ち込んでいる利用者もいる。馴染みの物を持ち込んでいる利用者は少ないが、その人の思い出の写真等が飾られている。	※ ※	利用者が居心地の良い生活が送れるよう各居室の物品を各本人の希望に応じて、整理している。 より一層家族らの協力を得て、その人らしい居室空間をつくれる事を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室内の換気を2～3時間に行っている。 トイレには消臭剤と換気扇で悪臭が出ないようにしている。	※	換気に関しては、利用者の様子を見ながら行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態に応じて、最適な空間スペースを設けている。	※	本人、家族の方の意向に添った空間づくりを実施していく。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 自室内の片付けは利用者と一緒にいき、物品の位置を変更しないように心がける。	※	各利用者の状況に応じて、各自一人で行ってもらう。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダには季節の花をプランターに植え水やり等が行える環境を整備している。	※	建物の外回りに出て楽しめるように努めたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己 ②) ① ほぼ全ての利用者の 評価) ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	完全に全利用者の考えを把握しているとは言えず、今後も力を入れていく余地のある為。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己 ②) ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	職員がなるべく時間を取るようにし、一緒に過ごすように心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己 ①) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	家族・家族と絶えず、連携を取り、各利用者に応じた生活をサポートしている為。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己 ②) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意思表示の困難な利用者もおり、今後も取り組んでいくべきであるため。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己 ③) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	車椅子利用の方等、重度な介護状態の方が多いため。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己 ①) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医との連携体制が完備されている為。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己 ①) ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人・家族の意向を汲んだ生活をサポートしている為、
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己 ①) ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	何でも気軽に話し合える関係づくりができており、求められていることを実現できている為。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己 ③) ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	今後、地域との繋がりを強めていきたい為。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②) ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	徐々に、地域との関係づくりを行ってきている為。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②) ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	最大限、職員がモチベーションを高め、はつらつと勤務できるよう施設長・管理者がサポートしている為。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②) ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	素直に喜びと満足の表情を表現して下さる利用者が多い為。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	どの家族の方からも、いつも満足と感謝の思いを伝えられている為。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

運営推進会議をはじめ、今後、地域（地元住民・民生委員など）との繋がりを強める働きを積極的に展開し、地域の方を当グループホームに呼び込める状況づくりに励みたい。